

あけましておめでとうございます

園長 原田健次

皆様、あけましておめでとうございます。

元日には北陸地方で最大震度7を観測した大地震、2日には羽田空港で航空機同士の衝突事故と大変心が痛む出来事がありました。

いまだ(1/4 現在)倒壊した家屋の下敷きになられている方もおられると報道されております。無事救出を願うのと亡くなられた方へ心からの哀悼の意を表します。

天災に関しては日ごろの備え、事故に関しては初心を忘れず、日々、緊張感をもって子ども達の様子をみながら保育をすすめてまいります。

さて、新年を迎え各クラスの保育も「まとめ期」に入ってきました。この「まとめ期」では、一人ひとりの子どもの育ちを確認するときとなります。5歳児(うめ組)については卒園及び就学を視野に入れて、入園からの育ちの最終確認をします。他のクラスではさまざまな環境や活動における子どもどうしのかかわりを見ることで、これまでの1年を振り返り、新しいクラスに引継ぎ、一人ひとりの子どもについて、これからの見通しを立てます。このように新年度の進学・進級がスムーズに行うことが出来る様、少しずつ環境を整える準備をしていきます。

例えば、乳児クラス。本園は育児担当制をという食事・睡眠・排泄を主に担当が行い、その関わりを通して子どもとの信頼・愛着関係を築き、子ども一人ひとりの生活リズムを基に、一人ひとりの思いを受け止めたかかわりを大切にする保育を行っています。この担当は、0歳児クラスは子ども3人に対して大人1人、1・2歳児クラスは6人に対して大人1人という、国が定めた配置基準があります。この基準ですと4月から0歳児クラスの子どもたちは3人から6人に1人の担当者とかかわることになります。

ですので、この「まとめ期」には次クラス進級のための「移行期間」が必要となります。これは移行期間だけではなく、普段の保育の中でも子どもの育ちに応じたかかわり方に変化をもたしています。例えば、食事の場面では、1対1対応でおこなっていましたが、子どもが落ち着いて食事ができるようになれば1対2対応で食べたりします。「おいしいね」や「次どれ食べる？」などのやり取りを友達と共有することは大変意味のあることだと考えています。また、外遊びも担当の子ども3人を連れて行っていましたが子ども達に外遊びを促し、行きたい子ども4～5人で外遊びを行うことをしていきます。その際、一人の職員は子どもとかかわり、もう一人の職員は陰から見守り、必要に応じて援助をします。

このように進学・進級に向けたかかわりをこの時期から行っていきますので引き続き本園の保育にご理解・ご協力の程、よろしく願いいたします。